

魚津市農商工連携インターンシップ

—これまでの取組みを振り返って—

魚津市 産業建設部 商工観光課 係長 廣田 彰

目次

1. 農商工連携インターンシップとは
2. 農商工連携インターンシップの狙い
3. これまでの取組みの振り返り
4. 事業成果と今後の展開

1. 農商工連携インターンシップとは

平成29年度からスタートした「農商工連携インターンシップ」については、今年の8月に早くも3回目を終えた。

この農商工連携インターンシップは、会社での業務体験といった一般的なインターンシップとは異なり、当市が持つ様々な魅力や伝統・文化を肌で感じ、体験してもらう「地域体験型インターンシップ」である。

3回目を終えた今年度を1つの節目として、これまでの取組みを振り返りつつ、その成果について考察していきたい。

2. 農商工連携インターンシップの狙い

魚津市には、三大奇観といわれる蜃気楼・埋没林・ホタルイカをはじめ、日本一美しい円筒分水と評される東山円筒分水槽や、幹回りが16mを超える洞杉など、数多くの魅力的な地域資源がある。また、豊富な地下水や肥沃な土壌により、リンゴや梨、ブドウといった果樹栽培が盛んに行われているほか、富山湾から獲れる新鮮な魚介類など、豊富な食にも恵まれている。

産業に目を向けてみると、富山県は伝統産業から最先端産業まで、製造業従事者の数が

全国でも屈指のものづくり県であるが、魚津市も同様に、生産用機械器具や金属製品などを主力とする製造業の割合が最も高くなっており、地元に根差したものづくり産業を中心に経済活動が営まれている。

一方で、魚津市の人口は、全国の地方都市と同様に年々減少しており、特に10代から30代といった若者の減少が顕著となっている（表1）。

ここで2017年4月にソニー生命保株式会社が発表した「高校生が将来なりたい職業」のアンケート結果を見てみると、男子高校生においてはITエンジニアやゲームクリエイターが上位を占めており、また、女子高校生においては公務員や看護師が上位を占めるものの、歌手や声優のほかイラストレーターやデザイナーといった職業も一定程度の割合を占めている（表2）。

こういったクリエイターやイラストレーターなどの職業については、主に首都圏を中心とした都市部に集中していることから、地方に住む若者が就職を考えたときに都会へ転出してしまい、東京一極集中といった状況に陥ってしまっている。

この流れは当市においても例外ではなく、

(表1) 魚津市の年代別人口の推移

(単位：人)

年 齢	平成29年度			平成28年度			平成27年度			平成26年度			平成25年度		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
0歳代	2,877	1,441	1,436	2,991	1,496	1,495	3,044	1,518	1,526	3,189	1,601	1,588	3,280	1,660	1,620
10歳代	3,755	1,977	1,778	3,812	2,021	1,791	3,909	2,071	1,838	3,981	2,099	1,882	4,015	2,103	1,912
20歳代	3,672	2,001	1,671	3,730	2,012	1,718	3,776	2,024	1,752	3,751	2,009	1,742	3,805	2,036	1,769
30歳代	4,338	2,279	2,059	4,550	2,387	2,163	4,715	2,485	2,230	5,003	2,646	2,357	5,322	2,798	2,524
40歳代	6,262	3,255	3,007	6,347	3,288	3,059	6,277	3,245	3,032	6,192	3,191	3,001	6,100	3,155	2,945
50歳代	4,911	2,487	2,424	4,814	2,416	2,398	4,883	2,450	2,433	4,943	2,490	2,453	4,934	2,474	2,460
60歳代	6,374	3,067	3,307	6,869	3,336	3,533	6,864	3,308	3,556	6,873	3,314	3,559	7,062	3,424	3,638
70歳代	5,700	2,578	3,122	5,375	2,388	2,987	5,500	2,443	3,057	5,556	2,458	3,098	5,485	2,418	3,067
80歳代	3,583	1,270	2,313	3,504	1,235	2,269	3,461	1,250	2,211	3,431	1,217	2,214	3,388	1,176	2,212
90歳代	892	207	685	827	180	647	774	154	620	731	144	587	698	142	556
100歳以上	32	3	29	31	3	28	30	3	27	31	3	28	27	1	26
合 計	42,396	20,565	21,831	42,850	20,762	22,088	43,233	20,951	22,282	43,681	21,172	22,509	44,116	21,387	22,729

(出典) 住民基本台帳 (各年10月1日現在)

(表2) 高校生が将来なりたい職業

男子高校生 (%)			女子高校生 (%)		
1位	ITエンジニア・プログラマー	20.8	1位	公務員	18.8
2位	ものづくりエンジニア	13.3	2位	看護師	12.8
3位	ゲームクリエイター	12.5	3位	歌手・声優等芸能人	12.5
4位	公務員	11.8	4位	教師・教員	10.8
5位	学者・研究者	9.5	5位	イラストレーター・アニメーター	9.8
5位	運転手・パイロット	9.5	6位	保育士・幼稚園教諭	9.0
7位	教師・教員	7.8	7位	カウンセラー・臨床心理士	8.5
7位	会社員	7.8	8位	デザイナー	7.5
9位	プロスポーツ選手	7.3	9位	学者・研究者	5.8
10位	YouTuber等動画投稿者	6.8	9位	会社員	5.8

(出典) ソニー生命株式会社「中高生が思い描く将来についての意識調査2017」

首都圏等都会の大学へ進学したのち、魚津に戻らずにそのまま都会で就職するほか、転職等のタイミングにおいて市内や県内における製造業をはじめとした既存の企業を選択せず、魅力ある仕事を求めて都会へ流出していくことなどが、若者が減少している大きな要因ではないかと考えられる。

こういった状況を打開するため、当市では、首都圏に住む大学生をターゲットとし、都市部から地方への新しい人の流れを生み出すための取組みとして「農商工連携インターンシ

ップ」を実施することとした。

全国的に進む少子化・人口減少の流れに歯止めをかけることはなかなか難しいと思われることから、今後は、都会に住みながらも地方と多様に関わりを持ってもらう関係人口の創出に向けた取組みが大変重要になってくると考えられる。

次代を担う若者に、本事業を通して、当市が持っている様々な魅力等を肌で感じ、また、魚津に住む様々な人との交流を深めることにより、当市に愛着を持ってもらい、深い関係

性を築いていくことこそが本事業の最大の狙いである。

また、中長期的には、本事業への参加学生が、就職や転職、結婚といった人生の節目を迎えたときに、当市を移住・定住先として選んでもらいたいという思いもある。

次章からは、こういった狙いを踏まえた本事業の取組みを振り返っていききたい。

3. これまでの取組みの振り返り

(1) 平成29年度の取組み

第1回目となる平成29年度については、これまでに前例のない取組みであったため、まさに手探りで進めることとなり、一般社団法人JA共済総合研究所（以下「JA共済総研」とする。）やシダックス株式会社と数回にわたり協議を重ねながらプログラムを構築していった。

募集方法をオープン公募としたこともあり、できるだけ多くの学生に参加いただくためにも、学生の心に響くものをプログラムに盛り込む必要があった。最終的なプログラム（表3）としては、例年8月上旬に開催される「じゃんとこい魚津まつり」を核としつつ、事業名にもあるとおり、市内民間企業やJAうおづ、魚津漁協、商店街関係者など農商工が連携して実施することとした。

初の試みであったため、学生が集まるか不安な面もあったが、最終的には、JA共済総研とつながりのある明治大学から学生26名が参加し、7日間の活動がスタートした。

参加する学生に様々な体験をしてもらいたいという思いから、小売業や製造業など様々な業種の企業訪問や野菜や果樹の収穫体験（写真1）をはじめ、魚津まつりでは、ユネスコ無形文化遺産に登録されている「たてもん」の引き手ボランティアとして汗を流したほか、日本海を背にして行われるUO!ジャ

（表3）平成29年度のスケジュール

日程		プログラム
8月1日	午後	開講式・講義
	夜	グループワーク
8月2日	日中	企業訪問（2社/グループ）
	夜	グループワーク
8月3日	日中	企業訪問（2社/グループ）
	夜	グループワーク
8月4日	午前	農業体験（野菜・果樹）
	午後	グループワーク
	夜	たてもんボランティア参加
8月5日	午前	グループワーク
	午後	市内施設等見学
	夜	UO!ジャズ・花火見学
8月6日	日中	グループワーク（発表準備）
	夜	蝶六街流し参加
8月7日	午前	成果発表会・修了式
	午後	フェアウェルパーティ

（写真1）農業体験風景



ズや海上花火大会の見学や、当市の職員とともに「せり込み蝶六踊り街流し」に参加するなど伝統文化にも触れる機会を持った。

また、最終日に予定されている成果発表会に向けて、日中の空いている時間帯や夜間を利用し、日々の体験等を振り返りながらグループワークも行われた。

このように、濃密な行程でプログラムは進

(写真2) 成果発表会風景



められ、最終日の成果発表会では、当市での体験や市民との触れ合いを通じて学生が感じた当市の活性化策として、「SNSを活用した若者目線での情報発信」や「若者を魚津へ呼び込むためのツアー企画」など、若者が当市に足を運びたいくなるような素晴らしい提案がなされた(写真2)。

プログラムを終えた学生からは、「都会にはない人の温かさを感じた」、「魚津のファンになった」、「友達を連れて遊びに来たい」といった感想を聞くことができたが、一方で、過密なスケジュールであり、心身的に負担が大きかったのか、「体力的にきつかった」、「自由に行動できる時間があれば良かった」といった意見も聞かれた。

確かに、学生が自分達で考え主体的に行動できる時間がほとんどなく、学生に一方的に与えるような行程になってしまったことは反省すべき点である。

しかしながら、濃密な行程であったからこそ魚津に対する思いが深まったとも考えられることから、プログラムのバランスを考慮することが次年度に向けての課題として考えられた。

(2) 平成30年度の取組み

2年目となる平成30年度においては、実施内容や全体のコンセプトについて前年度を踏襲しつつも、主に次の3点について変更を加えることとした。

まず1点目は、学生の募集についてである。初年度は、公募の形態をとっていたが、プログラムが進むにつれ、学生間で意識の差が生じてしまい、取組姿勢に温度差が生じてしまっていた。

そこで、平成30年度においては、1回目のインターンシップに参加していた学生のつながりから参加学生を募集する形に変更し、能動的に取り組む意識を持った学生を集めることにした。また、初年度は明治大学の学生のみでの参加であったが、より広範囲から参加者を募るため、首都圏在住の大学生を参加対象とした。結果的に、明治大学から11名、成蹊大学から1名が参加となった。

2点目は、開催時期についてである。初年度のインターンシップは、魚津まつりの時期に合わせて実施したが、あまりにも過密なスケジュールであったため、平成30年度においては、学生の身体的な負担軽減を図るとともに、学生が主体的に取り組めるよう、8月と9月の2回に分けて実施することとした。分割することによって、参加学生に当市の季節ごとの魅力をさらに感じてもらうとともに、9月の成果発表会に向けた準備期間を設け、発表内容の質を高めるという狙いもあった。

3点目については、市民と触れ合い、交流する機会を取り入れたプログラムとしたことである。当市の魅力や「生」の暮らしを知ってもらうとともに、当市との深い関係を築くためには、直接、市民と交流することが最善策であると考え、「一般家庭への宿泊体験」や「J A うおづ女性部との夕食調理」のほか、「キャンドルロード設置のお手伝い」を新たに盛り込むこととした。このほか、当市の伝統工芸である魚津漆器の絵付け体験やせり市見学・魚の捌き方体験など、より体験内容を充実させるとともに、学生が主体的に行動できるようフリータイムも新たに設けたところである。

(写真3) たてもんボランティア風景



(写真4) 蝶六踊り風景



もちろん、初年度同様、JAうおづや市内民間企業などにもご協力いただき、農業体験や企業訪問を行ったほか、昨年度に引き続き、プログラムの核となる魚津まつりにも参加してもらい、たてもんボランティア(写真3)や蝶六踊り(写真4)など、普段の生活ではなかなか味わえない体験をしてもらった(表4)。

9月の成果発表会でも、「魚津まつりの機会を当市のPRの場として積極的に活用すべき」といった魚津まつりに関する提案が複数のグループからなされるなど、まつりへの参加・体験が学生の心に強く刻み込まれていることがよく分かった。

また、新たな取り組みとして取り入れた宿泊

(表4) 平成30年度のスケジュール

日程		プログラム
8月1日	午後	開講式・講義・漆芸体験
	夜	JA女性部との夕食会
8月2日	日中	企業訪問(4社)
	夜	ワーク・蝶六練習
8月3日	日中	企業訪問(3社)
	夜	たてもんボランティア参加
8月4日	午前	洞杉見学
	午後	フリータイム
	夜	キャンドルロード設置 UO!ジャズ・花火見学
8月5日	日中	市内施設等見学
	夜	蝶六街流し参加
8月6日	朝	せり市見学・魚捌き方体験
	午前	ワーク・中間報告
9月8日	午後	ワーク
	夜	一般家庭での宿泊体験
9月9日	日中	農業体験(野菜・果樹)
	夜	一般家庭での宿泊体験
9月10日	日中	ワーク(発表準備)
9月11日	午前	成果発表会・修了式
	午後	フェアウェルパーティ

体験についても、魚津に住む人の考えや地方での暮らし、魚津にある魅力や伝統・文化、食、そして当市が抱える課題など、様々な話を地域の方々から直接聞くことで理解が深まり、多くの学生に強い印象を与えたようである。参加学生の事後アンケートでも、「都会での生活よりも、人のつながりが強く、心の豊かさや人の温かみがある地方での生活に魅力を感じる」といった感想があり、地方での暮らしを肌で感じ取ってもらえたことが伺える。

(3) 令和元年度の取組み

3回目となる今年度については、過去2回の実績と参加学生からの意見等を踏まえ、以下の変更を加えて実施することとした。

(写真5) 会社見学風景



(写真6) 漆芸体験風景



1つ目の変更点として、平成30年度においては開催時期を2回に分けて実施したところだが、学生からの事後アンケートでは「季節を変えて魚津市の魅力を感じることができて良かった」という意見がある一方で、「スケジュールを確保することが難しい」、「2回とも参加するのは負担が大きい」といった声も聞かれたため、8月のみの実施に戻すこととした。

2点目としては、学生の募集についてである。前述したとおり、当市は若者の流出が顕著であり、市内企業からも人手が不足しているといった話がよく聞かれることから、人材確保に向けた取組みの強化が大きな課題である。また、これまでに参加し学生から、「魚津市の同世代の方と交流する機会を設けてほしい」といった意見を聞いていたため、令和元年度においては、若手人材の確保と首都圏と

(表5) 令和元年度のスケジュール

日程		プログラム
8月1日	午後	開講式・市内施設見学
	夜	J A女性部との夕食会
8月2日	日中	企業訪問(4社)
	夜	たてもんボランティア参加
8月3日	日中	市内施設等見学
	夜	UO!ジャズ・花火見学
8月4日	午前	農業体験(野菜)
	午後	農業体験(果樹)
	夜	蝶六街流し参加 一般家庭での宿泊体験
8月5日	午前	農業体験(ブルーベリー狩り)
	午後	商店街訪問・漆芸体験
	夜	一般家庭での宿泊体験
8月6日	午前	かご漁体験・魚捌き方体験
	午後	意見交換会準備
8月7日	午前	意見交換会準備
	午後	意見交換会 フェアウェルパーティ

地元の大学生の交流という視点から、魚津市にある北陸職業能力開発大学校(以下「能開大」とする。)の学生も対象に加えることとし、最終的に明治大学の学生7名と能開大の学生6名が参加した。

首都圏の学生と地元の学生がうまく交流できるのか不安な思いもあったが、衣食住を共にすることで絆が深まり、夜遅くまで将来について語り合うなど、大学に関係なく親睦を深めていたようであった。

実施内容については、これまで同様、魚津まつりを中心としながら、企業訪問(写真5)や市内施設等の見学をはじめ、農業体験や漆芸体験(写真6)、一般家庭での宿泊体験など、引き続き地域体験型の要素を多く取り入れたものとした(表5)。

また、過去2回のプログラムでは、最終日に成果発表会を開催していたが、魚津市に対する提案を求めることが本事業の目的ではな

いことから、「インターンシップを通して感じたこと」や「インターンシップの経験を今後どのように活かしていくか」、「インターンシップ後の魚津市との関わり方」など、学生の素直な思いを聞き、意見交換を行う形態とした。参加学生からは、「魚津の人たちの心の豊かさやつながりの強さを感じた」、「魚津の魅力をとくさんの人に伝えたい」、「地元で居ながら普段は見えなかった魚津の魅力に触れることができ、印象が変わった」、「これからも市のイベントや祭りに参加していきたい」といった回答があったほか、魚津市内での就職も考えているという能開大の学生もおり、地元の学生ならではの回答も得ることができた。

なお、全てのプログラムが終了して帰路につく際、明治大学と能開大の学生が再会を誓い合う場面が見られるなど、これまではない首都圏と地方を結ぶ新たなつながりが生まれたものと強く感じ、これからの彼らの交流に期待を寄せるところである。

4. 事業成果と今後の展開

事業開始当初から成果指標等を設定していたわけではないため、正直なところ明確な成果というものを挙げることは難しいが、これまでの取組みを振り返ってみたときに、参加学生の心には当市の魅力や人の温かさなどがしっかりと刻み込まれ、魚津に対する深い愛着が生まれたものと思っている。

この思いを裏付けるものとして、本事業とは別に、参加学生による以下の取組みがなされている。

平成30年11月には、事業開始当初から本事業にご協力いただいているシダックス株式会社にお声かけいただき、東京都で開催された「キネコ国際映画祭」において魚津市のブースを出展した際、本事業に参加していた学生が主体となって、魚津の特産品販売や本事業

の紹介など各種PRが行われた。平成31年1月に日本橋とやま館において「みずうおづ展」を開催した際にも、参加学生にご協力いただき、特産品販売のほか、魚津の観光PRや、本事業の紹介などが行われた。また、プライベートで当市を訪れ、宿泊体験先に再度宿泊したり、受入家庭と電話で近況を報告し合う学生や、魚津まつりの開催期間中に当市に友人を連れて遊びに来る学生もいた。

このように、これまでの取組みが本事業の狙いとしている関係人口の創出に確かに結びついていると強く感じており、これが一つの成果であると思っている。

一方で、これまで培ってきた学生や関係者とのつながりを、どのようにして維持し、充実させていくかという点が、これからの課題として挙げられよう。

このような中、今年度の参加学生からの提案により、これまで本事業に参加した学生を対象としたグループがSNS上に作られ、すでに23名の学生が登録している。

こういった情報共有の場が学生の主体性により作られるということは大変ありがたいことであり、当市への思いを持ち続けてもらえるよう、小まめに各種情報を提供するなど、是非とも有効に活用していきたいと考えている。

現段階では、学生等との関係性の維持・充実といった課題に対する具体的な方策は見出せていないが、これまでに参加学生や本事業の協力者及び関係者から出された意見や提案等を踏まえつつ、新たな事業展開も視野に入れながら、さらなる関係人口の創出・拡大及び将来的な移住・定住に向けて引き続き検討を進めていきたい。

最後に、これまで事業の企画運営にご協力いただいたJ A 共済総研やシダックス株式会社をはじめ、全ての関係者にこの機会を利用して感謝申し上げ、結びとしたい。